名所發句集 三編 全

106

357

From Hall Nov. 98
6883

此集は小田原の人祁伯をもとむ
ましてはやされ二編まて既になりぬるに
三編の寄句は外にまさりて月の出を
まちし此の月のことし　毛
嘉の竹のなるの世人雲山士書す

菊守園見外先生輯

名所發句集二編

一立齋廣重先生画圖

東海堂藏版

しらぬ山中の形も文画也
初の景もとも画の筆にては
いつまても美人をもまさま越
東海寺の主人のなかにまかす
ことまてられ

花笑園見外

京人の道学
らしさ美みまてれ

花笑見外

若狭 松尾山鴻浦

越前 細呂木鹿島

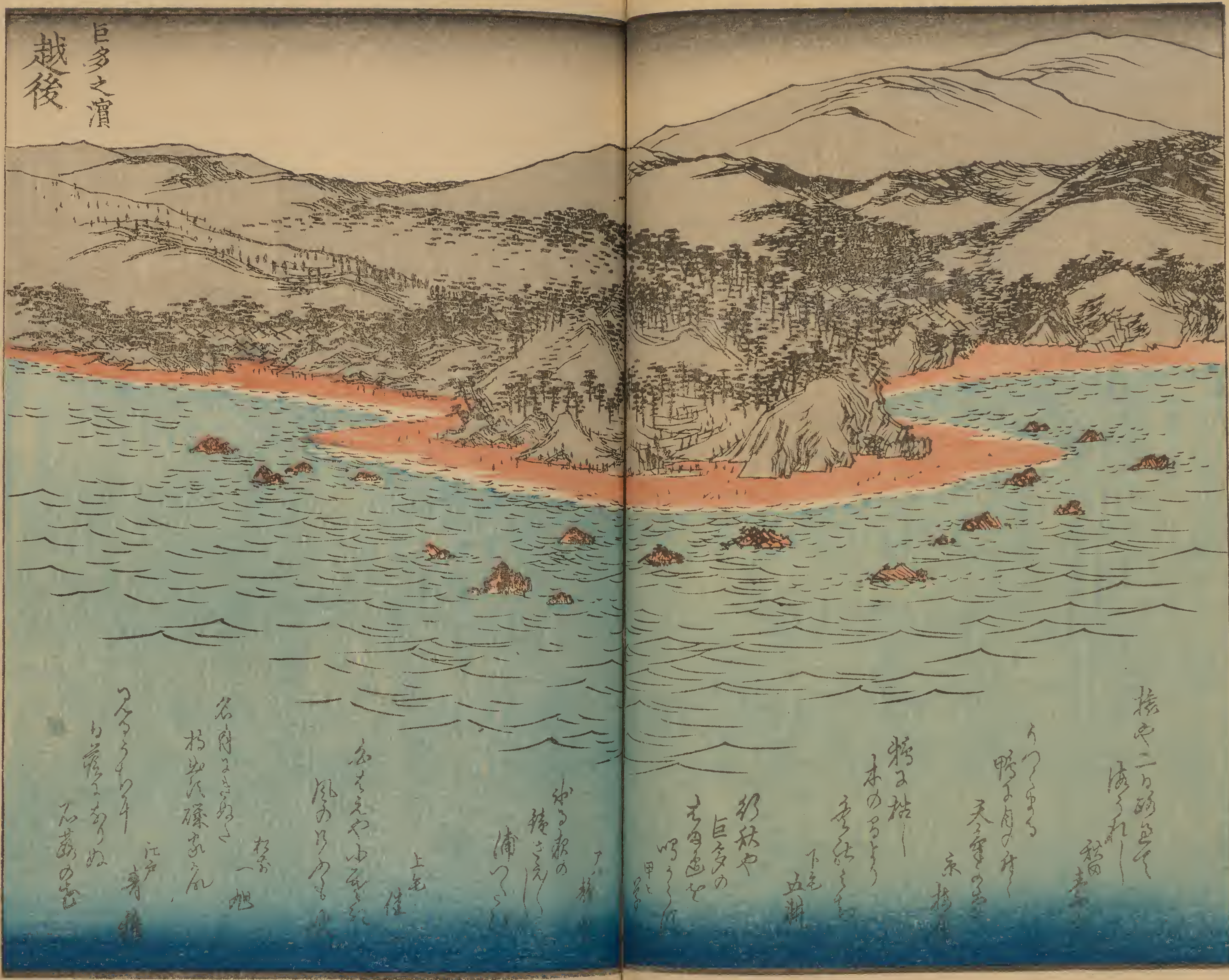
加賀金澤白山

能登産神村風渡り

越中
青木山池田

越後
親不知
砥並村

越後
亀割坂


越後
巨多之濱

佐渡雪ノ高濱

家ゝう春く路中おとなし冬の風　京　傚年

明りさす方ハ佐渡ハ秋吹て東風　江戸　卜早

北向きにかゝる雲花や梅の香　江戸　貞之

ひとり行く鶴の通ひの雪の山　少年　岑笠

能登まで筆なる日和の景色　上毛　桂山

船の出て山は海やらふの月　上毛　伴閑

霜凪や生まれ出る鐘一ツ　貝外

船さ雲の消て船る冬の風　故人　卓池

雪汁の鶴松待つ音す秋　江戸　荷少

那ふなる濱の名残や時鳥　江戸　露氷

菜の花やみどりの空も霞けし　貝外

雨晴の月や萩井の音まかし　岱年

さゝし汐や風に靡きて散る柳　旭喜

七夕や雨戸をくゞる謝すり入　一具

稜守る遠みどりや國さかひ　如柳

若葉や黄の花より常に似て　梅室

入相の花や静まるや三日の月　卓郎

野をひろし歩し眺ても秋乃風　未柳

夕山や日に浅まらしき蝉の飛　貝介

月出でし安くも橋を人通り　蝶雅

さしこみの月をながれて野は卯月　由哲
青嵐空にうつりて茂りけり　子濤
紫陽花の地にもこぼれさく草の白　有節
秋たつの紅に色ますよしれ庭のあし　乙宴
ふり向けば清や寺こぼれけり山の秋　雲史
志つみきや垣根つたひし家の秋　ふ涼
清いける菜に稲引麻や秋さかり　鼎左
黄香升むつさ清く出や艶てある　麦童
後物に里の花咲やほしの紫　為山
石山は月も名をさし冲婦人　清風
入相の鐘よりもとの雲晴の那　松吉
さるされやおりくる廣き空の下　遠卿
人よりも遊ぶ蝶をば行る月秋葉　西馬
黄昏や屋根をに繪て出船　稲洲
文月や竹のこ紅やうに松まつり　松什
池で見つ日のよに二度の蓮見かな　永豊
初風の梢や枝の古きとり　語菴
旅愛の仮寝はるや蝉の声　霞扇
よみ入りや昔好に越て鞭の赤とんぼ　惟草
月を含雲の中ありし啼秋の鶏　花谷

まつりにも大事のまもりや牡丹紫　祖今
ぬかるみに茸狩人やうつ行山　疑枝
うゑし甲斐ありてことしの初桜　百年
竹の子や盗人通ひし所の秋　一具
尚うけて水まつりや小松むし　梅室
夢知らで安く寝田毎の蛙かな　梅叢
穂芒のひとつ揺ぐや畔清き　山方
落葉して落葉ぬ松の木下風　梅笠
萩かけの露も花から立寒り　素交
名月も上坐に居るよしの霜　里友

まづ見し秋の梅かな月秋にす　士篤
代る隅々元来葛結び　西后
松のうへ見えけり錦の裏の雪　文彦
萬葉の門遠ひ見える新家の風　京魚
夢の頭鳴つてふ初音に緋　玉英
目隠しきけば見えつつ御墨結ぶ二　玄魚
一二羽や佃田こそ乾ひかりて氏　由埜
鳥なつけて居るよ秋の夢　思風
初東風や梅もかくる笹の伊達　梅濤
黄昏れひまなり梢ら鵜山か　見外

秋立や垣をも越し池の鳬　梅室
鶺鴒や四五日清く水の音　松月
下馬先の人に寒立ゆしく案　逸淵
黄昏に鳴やもどりの渡し　聖山にて　一具
篠漬や刈もむれ萩鳴子哉　文操
色しばり咲ぬありしそ草の花　由誓
猿よりは入秋や寒の海　黄山
行合の人を投目や辻角力　麦堂
秋庵をはするし送りや杜若　良よめ
秋の風萩も吉には山見申る　貝外

小児諸症
大人必用
婦人一切
聖茶丸

此薬まことに天下無双の奇法なり 能按ハ極上薬の煎薬を用ひて茶のごとくすべし 故に世間なみの能書をはぶきぬ

此薬は第一に用ゆる小児ハ虫の根を切るゆゑに疱疹まことに軽し 一月役に苦しむ婦人ハいのちよく苦しみを軽くするハ血氣を調ふるゆゑなり 癪積持また留飲持の治するも準じて知るべし 眼病と毒虫のさしたると頭痛とにハ咬推きてぬるべし

○御薬代一粒二十銅　五粒入一包百銅　取次所

むし歯の妙薬

此薬ハむし歯のいたむ所にすこしつけべし たちまち治るよろしげにつけ合あり　代四十八銅

元賣弘所　東都書肆　本銀町二丁目　東海堂　永樂屋丈助

白澤の圖　北尾重政画　正面摺一枚
この圖を家に懸れバ悪夢を除き吉夢となるの守りなり

滑稽白癡問答　一筆斎主人戯輯　中本全一冊

妙案即席 道戯問答　同人作　同　全一冊
この書ハ童蒙の頓智をたすけけいこするたよりにしてそくせきに問答をするたよりともなるをかしきさうしにておさなきものゝ[illegible]とてあそびて益あり

新撰をどけ一口ばなし　笠亭仙果聞書　溪齋英泉戯画　中本全一冊

神事行燈　初編　大石真虎先生筆　全一冊
此画本ハ神事祭礼の掛行燈の画に用ゆべき滑稽狂画の縮本なれバ初学の画児師をはじめ其外にも便利よし

同二編　一勇齋国芳先生筆　全一冊

同三編　溪齋英泉先生筆　全一冊

同四編　後素園国直先生筆　全一冊

同五編　溪齋英泉先生筆　全一冊

俳諧五七集　枇杷園士朗翁著　全五冊
士朗先生俳諧の書数篇を撰述あり其中に二十人の五七集と号し先生一世の風雅を尽されし八代集をあつめ芭蕉翁以後の大家にして風調高く此道に[illegible]業ハ[illegible]俳諧ともいふべき書也

枇杷園類題發句集　梅花園先生撰輯　初編二編　全二冊ツヽ
士朗翁一世の發句集なり四季雑とも部をわかち数多の發句を集めて我て初心の[illegible]句を作るべき[illegible]

諸國名所發句集　初篇出板　佳本精製　二篇三篇四篇續而出板　全四冊
田喜庵護物翁校
田桂園護岳大人輯
溪齋英泉翁画圖
此書ハ文[illegible]六十余州の名勝風景を英泉翁親しく[illegible]写し[illegible]初篇より[illegible]初心の幼年山水を画く一助ともなる[illegible]

晴雨考 全一冊

年々改正出板

土御門殿御門人
平井直之先生著

此書ハ天文地理人事ニ亘りて運気の変化を著し天変の兆を知り時節に応ぜざる寒暑の不順あり又凶歳豊年の多少あるを察し風雨雷震災病の来るを前に知りて禍を防ぐ妙術を記したるが [illegible] 農家耕作の為ハ有益の一助なるべきものなり

阿蘭陀 渡法製 御懐中 [illegible]

[illegible]

元祖 尾州 桐間堂製

観音菩薩施無畏之圖 唐紙摺 一幅

[illegible]

念佛行者現世護念之圖 一枚摺

沙門劉云の述る所 [illegible] 利益のありがたきことを [illegible] 一枚摺なり

三社御託宣 一枚摺

大橋重雅先生書

[illegible]

敬の字 正面摺一枚

水戸黄門公御作

此一枚摺ハ元禄年中國中へ出ししたし有がたき教えの御作文なり

本居宣長之像 正面摺一枚

[illegible]

桃青翁之像 正面摺

[illegible]

右六点重て板摺之 [illegible] 別段表具仕立も出来 [illegible]

大橋重雅先生書
東海道往来　全一冊
大橋重幸先生書
附リ書札集

大橋重政先生
大橋重雅先生
西村重幸先生
大橋三筆集　全一冊

前北斎為一改狂画老人卍筆
富嶽百景　全三冊

渓斎英泉筆
諸國名所画譜　初編出版　二編出版　三編四編追々出版　全四冊

城山奥村先生著
量地弧度算法　懐中便利折本帙入　附録口伝　上下二巻　全一冊

旭山斎藤先生閲
東理斎藤宣義著
算法圓理鑑

佐藤氏之助著
奇魂　一名尚古医典初編　全二冊

笠亭仙果作
一勇斎國芳画
幼稚源氏東の初旅　五編　近日出版

東都書肆
東海堂　今川橋南本銀町二丁目
永楽屋丈助

稚源氏東國初旅　仙果作　國芳画　初編より四編まで去戌年より発行　五六編当亥秋冬までに出板

五編　熊坂長範義経を害せんとして家子をとろす女たうぞく由利が忠節のさやゐまで夜叉姫よしつねを見初る矢作の長者が八幡威の羽織を縫る恭聚を安とし
六編　義経風来る山まできぬるもみめぐりあふ夜叉ひめの嫉妬伊勢三郎が義経に此編にてまみゆるおそろしくもとこれ不宜し
七編　金売吉次六条河原にて斬れんとするよりて鬼一法眼が救ひ姫景清が吉祥寺の物語浄るり本と大に違ひ新工夫この編にあり
八編　よしつね建礼門院の御所へしのび難波次郎常房がはかりごとにて八島合戦の数段までさまざまの物がたりあらば以下別目録にあるべし

本店　尾張名古屋本町通七丁目
永楽屋東四郎
出店　尾州　江戸本銀町二丁目
永楽屋丈助